

婦人会ニュース オンタリオボランティアサービスアワードに美味しい昼食を用意して下さった2人の婦人会の馬場ローズさん（30年間の貢献）、あさだケイさん（15年の貢献）に心からお礼申し上げます。

キャンプルンビニに贈り物

ガイディングライトの前号でお伝えしたようにお寺のメンバーからキャビン2に冷蔵庫、そして新しいシャワーのご寄付を頂きました。誠に有難うございます。キャンプに集まるメンバーがさぞかし喜んで使うことでしょう。



darlene.rieger28@gmail.com 又はお寺の事務
tbc@tbc.on.ca TEL(416-534-4302)までご連絡お願いします。

翻訳のお手伝い募集中!!!
仏心の記事を翻訳して下さる方を必要としています。もし出来る方がおられたら



秋のバザー

11月14日(土) 午後12:30~4:30



☆☆ダイニングエリア&お持ち帰りコーナー☆☆

うどん、お寿司、お弁当、串焼き、天ぷら、チャーメン、
ベーキング、お饅頭などなど圧倒的な品揃えの美味しい料理



♪♪フリーマーケット♪♪

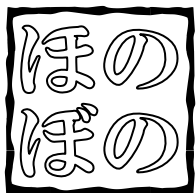
クラフト、観葉植物、リサイクル品、古本などバーゲン品の数々



\$\$\$ラッフル宝くじ・サイレントオークション\$\$\$

サイレントオークション・リサイクル品のドネーションをお願いします

リサイクル品テーブルへのドネーションを11月9日(月)より受け入れ開始します
ただし洋服、おもちゃ、正常に作動しないものはお断りしておりますのでご了承下さい
またサイレントオークションへご出品いただける方も募集しております。
バザー準備を助けてくれる方、仕事予定表を見て、canzai@sympatico.caまでメールを下さい



HonoBonoTaiko

10月のほのぼのクラブは太鼓教室です!!!お寺の副会長のダーリーン・リーガーが皆さんに、ばちをどうもつか、どのように立つのかなど基礎から丁寧に教えて下さいます。定員は20人ですので参加する方はお寺416-534-4302 又は rev.endo@tbc.on.ca までご予約下さい。動きやすい服装で来て下さい!!!

日時：10月25日（日）2時から3時半まで
（90分）

場所 トロント仏教会地下ソーシャルホール

一人5ドル



今月の法語

如来、無蓋の大悲をもつて三界を矜哀したまう。世に出興するゆえは、道教を光闡して、群萌を拯ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。

「仏説無量寿経」巻上

永代経のご案内

11月15日（日）午前11時

「永代経」とは、永代読経の略で、永代にわたりこの先もずっとお寺でお経が読まれ、仏法が永く相続されていく事を願ってお勤めする法要です。浄土真宗においては、先に往生された方々を偲び、その方をご縁として、一人ひとりがこうして今、仏法に遇わせていただけた事を感謝する大切なお参りのひとつです。過去に永代経ご懇志をあげていただきました皆様は、ぜひご家族おそろいでお参りになって下さい。

またトロント仏教会のますますの仏法繁盛を願い、永代経に記帳をご希望の方がおられましたら、永代経当日までに、事務所までご連絡下さい。その際にはお一人ずつの法名をご用意下さい。

御袖章の大意

浄土真宗の信心のいわれをくわしく知りたいと思う人は、ことさらに智慧も学識もいりません。

ただ自分は罪深いものであると知り、このようなものまでもお救いくださるみ仏は、阿弥陀如来だけであると信じて、ただひとすじに、このみ仏のお袖にすぎるような思いで、後生をおたすけくださいとおまかせするならば、み仏は深くお喜びになり、八万四千の光明を放って、その光明の中におさめとってくださいます。

そのことを『観経』には、「光明遍照十方世界念仏衆生摂取不捨」と説かれています。ですから、私が仏になることにはなんの心配もありません。

なんと世に超えすぐれた本願であり、なんとありがたい阿弥陀如来の光明でしょう。この光明の縁に遇えなかったならば、はかりしれない昔からつくり続けてきた罪のさわりも決して消えることはありません。

いまこの光明のはたらきにより、如来のお育てをいただき、他力の信心を得ることができました。この信心も、自分の力でおこす信心ではなく、まったく阿弥陀如来から与えられたものであることがはっきりとわかります。

そこで、他力の信心を得た人は、阿弥陀如来のご恩を心にかけ、常に仏恩報謝の念仏を申すべきです。

(五帖第十二通)

テリーワタダの本、発売開始

日時：11月1日（日）法座
終了後 場所：トロント
仏教会ソー
シャルホール

彼の本についてテリーが話します。また、詩の本「100人のゴーストゲーム」の朗読があります。彼の漫画とCD「ランアウェイホースィーズ」が購入できます。軽食をご用意しています。どうぞご参加下さい。



敬 弔

次の方が御往生されました

生前のおもかげを偲び、謹んで敬弔の意を表します

デロー アリザ 様

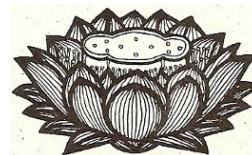
五十六歳 八月二十二日往生

森 昭三 様

八十七歳 八月二十九日往生

野村 ルーシー 様

七十四歳 九月十七日往生



2015年東部地区仏教徒会議 クリーブランド 「みずから僧に帰依したてまつる」



クリーブランドの会議は初めから終わりで成功したといえます。その証拠に、来年はシブルク仏教会で開かれますが皆、参加するつもりです。EBL会議には初めて参加しましたが次回私も行くつもりです。常連の参加者は2016年の勤労感謝の週を楽しみにしているでしょう。

トロントからたくさん参加者は9月4日朝7時にグレイハウンドバスにのって予定通り出発しました。ストニークリークで数人乗せるため止まり、国境のフォートエリーに向かいました。そこで通関手続きのために約二時間待ちました。それは静かな黙想の時間となり忍耐力を養うのに役立ちました。

バックアローで朝食の珈琲時間のため止まり、昼食で止まった時はそれぞれが用意したお弁当を楽しみました。そして予定通りクリーブランドに到着しました。

滞在するウェスティンホテルで主催者の方々と会い、お寿司やデザートを供されました。

常連のメンバーにとって友情を再び、確認できる時でもあり、また私のように新しい友人をつくる機会ともなりました。トロントから直接自分の車で来た人の中にはクリーブランドの友人の家に滞在した人達もいました。彼らのような人がいることはとても良い事です。若いアダムとステイブン玉置です。

週を通して講演者はすばらしく、活発な話し合いを提供して下さいました。私達の基調講演者はジェフウィルソン博士でロン宮村先生、アール池田先生の法話もすばらしく本当にためになりました。

発表が皆を喚起して法や浄土真宗の教えを多くの人に伝

わったと思います。

土日のフリータイムはクリーブランドの美術館に行くグループがいる一方、ロックンロールホールや海岸のエアーショウ、カジノを楽しむ人もいました。

また、日曜日に参加者はクリーブランドのお寺に行き、驚くような素敵な朝食に引き続き、パネルディスカッションとサービスを行いました。パネルディスカッションは私も含め「非伝統的」メンバーも参加して活発に行われました。この後、サービスが行われ、米国仏教団(BCA)の梅津廣道総長により法話をいただきました。サービスの後、すばらしいボックスランチが組織委員会より配られました。午後のフリータイムの後、クリーブランド美術館に行った人達もいましたが、終わりのディナーに皆集まりました。これもすばらしく、食事の間、アコースティックレゲエバンドにより演奏が行われました。

次の日の朝、バスで来た私達は、クリーブランドのメンバーによりボックスランチを渡され、見送ってもらいました。帰り道はこれといったものはありませんでしたが、大きなモールで足を伸ばし財布のひもを緩めました。出発と同様に、トロント仏教会に時間通りに到着しました。

私は今年の会議に参加した全てのメンバーと話ができたと思いますし、すばらしい講演者と共に浄土真宗のみ教えをどのように伝えるか考える機会と素敵な食事を恵まれクリーブランド仏教会に感謝します。また一緒にバスで旅行した皆様とアレنجして下さったジェスィー、長いドライブを楽しくしてくれ、アメリカへ入る時間を短くしてくれたユーモアあるドライバーのベニースに感謝します。

合掌

デイヴィット サックスビー

であり、忙しさから何とかして作りだした時間を花ばなをじっくり観察することにあてています。私の花は適した土や水をやり、適するところに植えてやりたりする私の世話を必要としています。庭に集まる昆虫もハチも花の蜜が必要で花も受粉に彼らの手助けが必要です。鳥も元気に子供を育てるためには草木の種が必要ですべてのものは互いにたより合いつながっています。私は私で庭に集まるいろいろな種類の鳥や蝶、その色や鳴き声を楽しんでいきます。

庭の手入れは完全には行えないものです。どんなに技術のある園芸家も完全な仕事はできません。庭仕事をする事で忍耐、集中力、注意深さといったことを学べると思います。

庭で仕事をしていると21世紀に満ちる私の心配ごとは姿を消します。それは、調度お経を唱えている時、又は深い瞑想をしている時と同じであると思います。

2011年6月写真家のルイス シュワーツバーグは素晴らし「TED TALK」をしました。その題は「自然、美、感謝」です。

彼の花の低速度撮影が含まれた発表においてのべたことです。

「私は低速度撮影をノンストップで一日24時間、一周7日間30年以上まわし続けています。それは花が動くのを見るためその動きはまるでダンスのようで見あきることはありません。花々の美しさは色、品、巧みさにおいて私達を圧倒します。このような美を見ることは私達にとって3番目の食事といっているでしょう。美しさ、そしてその魅力は生き延びるための自然の道具です。なぜなら私達は好きになったものを守ろうとするからです。それは私達の心をひらかせ、私達が自然の一部であることをそして、切り離すことのできないものであることを実感させます。自分自身を自然の中におき自然の一部であると自覚した時、すべてがつながっていることに気づきます。

脳への80パーセントの情報は目から入るということをご存じですか。そして光のエネルギーを音の階律で表すと仮定すると裸眼でみる光のエネルギーは音では一オクターブの範囲にあたるというの正しいといっているのではないのでしょうか。

光のエネルギーを電気的信号に変え、世界を認識できるように

する脳の働きをありがたいと思いませんか。自然の楽しさ、美しさを感じることでできる心を与えられていることはなんともうれしいことではないでしょうか。

毎朝庭を歩いて鳥のさえずりを聞いていると私は浄土を垣間見る気がします。

阿弥陀経には釈尊が浄土の有り様を弟子の菩薩や阿羅漢、特に舍利弗に説法します。

「、、池の中には車輪のように大きな蓮の花があつて、青い花は青い光を、黄色い花は黄色い光を、赤い花は赤い光を、白い花は白い光を放ち、いずれも美しく、その香りは気高く清らかである。

舍利弗よ、極楽世界はこのようなるわしいすがたをそなえているのである。

また舍利弗よ、その阿弥陀仏の国には常にすぐれた音楽が奏でられている。そして大地は黄金でできていて、昼夜六時のそれぞれにきれいな曼荼羅の花が降りそぐ。その国の人々はいつも、すがすがしい朝に、それぞれの器に美しい花を盛り、他の国々の数限りない仏がたを供養する。そして食事の時までには帰ってきて、食事をとってからしばらくの間はそのあたりを静かに歩き、身と心をととのえる。

舍利弗よ、極楽世界はこのようなるわしいすがたをそなえているのである。、、」

私の庭はなんて素敵なんでしょう。庭があることに感謝します。そして、毎日花々が私にもたらす恩恵に！

花が私に教えてくれること



花を良く観察すれば、そこに宇宙全体を見いだせる

禅宗 ティクナットハン

生涯を通して続けた私の大好きな趣味の一つにガーデニングがあります。初めての16歳の夏のアルバイトはミシサガの中央庭園で働くことでした。家族経営の所で私は労働者として働きしました。そして度々経営者のバッドクロツィアに会いました。彼は私にいろいろな種類の植物のコンディショニングやそれぞれに適した土は何か肥料は何か指導してくれました。また、多年草と一年草の違い、好日性のもの、日陰を好む植物、苗木の植え方、デイジーからバラにいたるすべての植物の育て方を習いました。それは、酸性土を好むもの、水を必要とする植物、乾かし気味を好む植物といったように習いました。

苗木が成長して素晴らしい色や形になるための最高の環境づくりを私は学んだといっていると思います。そして、同時にどんなに庭師の腕前が優れていても、時に環境が整わず、植物が枯れてしまうこともあることを知りました。

私は庭で散策するのが楽しみです、そんな時でも自分の無力さを痛感します。失敗することが多いのです。近所には私より数段庭いじりがうまい方がいます。私は本、インターネット、または他者から熟練者の知識を得る努力をしているつもりです。私は私なりに何年もかかって集めた限られた知識を用いる最善の努力はしています。庭は、私にとって単なる安らぎの場ではなく、植物からいろいろな智慧を学ぶ場となっているのです。

少し前、私は花の教えを見つけました。

ある日、仏陀は弟子の摩訶迦葉に直接、智慧を伝えました。日本、中国のオリジナルの話の名は「拈華微笑」、又は「はな

をもって微笑んで」となっています。

この話において釈尊はもっとも美しい可憐な白い花を掲げることで彼の弟子に言葉ではない教えを与えました。誰も理解することができませんでしたが摩訶迦葉だけ微笑んで分かりました。

禅においてこの物語は、言葉では表現できない真如、又は仏性の本質を伝えようとしています。実に仏陀は茎やすべてが泥まみれのハスの花を高く掲げたといわれています。

この行為はとりわけ、自己中心の狭い心からも賢明な心が生まれることを示しています。

泥の池から美しいハスの花が咲くようにそして清楚だけれど美しい私の庭のデイジーが肥料やピートモスから栄養素を得ているようにこれらのすてきなメッセージは単純ですが深みのあるものです。このみ教えは知力や言語にまさるものがあることを伝えていきます。そして経験は教義にまさることと強調しています。たぶん心のうちの深淵なる事実は言葉では表現できないからでしょう。光のエネルギーが目を通して脳で花として認識され、そして私達がその形や色に感動する、なんとすばらしいことではありませんか。私達は単に自分の存在をもって分かりあうことを学ばねばなりません。そして私達はよく聞き、しかし、耳のみではなく視覚を使って私達の心、体全体を通して理解しようと思わねばなりません。

私は庭に接するたびにこの世の利那を感じずにはいられません。秋が来たら庭を休眠させねばなりません。カナダでは輝かしい夏の状態で花を待つ事は出来ません。秋がくれば萎れ枯れてしまいます。夏中毎日美しく咲き誇っていた花々を見られなくなることは実に悲しいことです。しかしそれは自然の摂理です。庭いじりができなくなることは誠に残念ですがまた春になれば再び草花は眠りから覚め花を咲かせることはわかっています。

庭を見てみると、縁起について考えずにはいられません。私にとって庭仕事をすることは自然を身近に感じられる貴重な時

倫理性と生き延びること



ショウがあります。

現実感のあるもので一人の人や小グループを難しい環境において孤立させ、その上でいろいろな手におえないような事柄に対処できるか、勇気をもって立ち向かえるかみる番組です。この番組の見どころは、その人物、グループによるチャレンジを見ること、そしてみる側にもその場にいたら自分ならどう対処するかをイメージさせるところです。

私はいつも自分だったらかなり良い対処ができると思っていますが、しかし実際には熊に食べられることになるでしょう。いやリスにだってやられるかもしれません。

私達の道徳性（倫理性）の背後にある本性を見せるところにこのショーの狙いがあります。たとえば、普通の人がいとも通りの行動を選ぶか又は何か行動をおこして生き延びようとするか、最大の例は食べることです。菜食主義はトロントでは問題ありませんが、北極のツンドラでひとりでいたらどうでしょう。私達が最近見た番組の例をいいますとごく

多くの人がそうであるようにクリSTEINと私は子供が寝た後、テレビ番組を見るのが好きです。私達が見る番組の一つに「サバイバルマン」や「人間対野性」といったサバイバル

普通の英国女性のグループが砂漠のような不毛の島に取り残されました。そして野生の子豚に出会い仲良くなりました。しかし女性達は何日も食糧を見つけれず、ペットの子豚を食べて生き延びるかどうかという疑問に悩まされ始めます。もちろんそれは感情的にとっても辛いことです。できる限り食べられないようながんばりましたが、結局メニューはポークチョップとなりました。

私自身菜食主義者です。そして、自分の空腹を満たすために他の生きものを苦しめたくないと思っています。しかし、この考えも私が、今生活を営む上で快適な立場にいるからでしょう。

切迫した立場になったら私だってバーベキューソースを探すに違いありません。これが人間なのです。

このことを親鸞は800年前に日本において悟ったのです。彼は私達に出来る限り善人であるように力説する一方、私達は完全なるものではなく、時として避けられないいやなことをしなくてはならないものだと慰めました。

このような時、阿弥陀様はどんな間違いを私達が見ても、またどんな困難な選択をしても決して見捨てず、無限の慈愛をもって抱きしめてくださっているのです。私は親鸞の人間の本性を理解した無理のない考えに救われます。出来る限り頑張れ、しかし挫けても仏陀はいつも貴方を見守っています。

合掌 ジェフウィルソン

佛心

二〇一五年十月号
浄土真宗
トロント本願寺

戦後70年にあたって非戦・平和を願う総長談話

アジア・太平洋戦争の終結から、本年度で70年目を迎えました。先の大戦によって犠牲になられた世界中のすべての皆さまに対し、あらためて衷心より哀悼の意を表します。また、大切な方を失った方々の悲しみは、今現在も癒えることがありません。戦争は遠い未来の人々にまで、深い苦しみを与えるのです。

約2500年前、釈尊は「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」と説かれました。しかし、今なお私たちは、自分の都合の良いものには愛着を抱き、不都合なものには憎しみを抱くという、自己中心的な生き方をしています。共にかげがえのない命を受けながら、他者を認めることができず、争いあっているのです。いかなる戦争も、必ず、多くの命を奪います。そして、人と人が命を奪いあうことほど愚かなことはありません。

非戦・平和こそ人類の進むべき道です。

大谷光真前門主は、1997年3月20日、本山・本願寺における基幹運動推進・御同朋の社会をめざす法要で、「すべてのいのちの尊厳性を護ること、基本的人権の尊重は、今日、日本社会の課題にとどまらず、人類共通の課題であり、世界平和

達成への道でもあります」と述べられました。私たちは「いのちの尊厳性」が平和実現のキーワードであることを、今こそ認識すべきであります。

また、大谷光淳前門主は、2015年7月3日、広島平和記念公園における平和を願う法要で、「人類が経験したこともなかった世界規模での争いが起こったあと、70年という歳月が、争いがもたらした深い悲しみや痛みを和らげることができたでしょうか。そして、私たちはそこから平和への願いと、学びをどれだけ深めることができたでしょうか」と述べられました。

現在、日本では、我が国の平和と安全保障を巡って、国会のみならず、全国各地で厳しい議論がおこなわれていますが、多くの国民が納得できるよう、十分な説明と丁寧な審議が尽くされることを願っております。私たち浄土真宗本願寺派でも、先の戦争の遂行に協力した慚愧すべき歴史の事実から目をそらすことなく、念仏者がどのように恒久平和に貢献しうるかについて、研究を重ねてきました。近々に、その成果を平和に関する論点整理を中間報告として公表する予定です。これを機に、宗門内外の方々と共に学びを深めることができれば幸いです。

戦後70年を経た今、私たちは過去の戦争の記憶を風化させることなく、仏の智慧に導かれる念仏者として、すべての命が尊重され、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献すべく、歩みを進めてまいります。

2015年8月10日

浄土真宗本願寺派

総長

石上智康